

復興交付金を活用した震災遺構の保存検討について

1 候補対象物

気仙沼向洋高等学校

2 選定過程

気仙沼市東日本大震災伝承検討会議第 1 回会議において震災遺構候補 26 件（自然物を含む）を提示し、第 2 回会議に先立ち 13 件の視察（車窓視察含む）を行った。

第 3 回会議においては、被災建造物について現存する 4 件に絞り意見を聴取したところ、他復興事業への影響が少なく保存可能性に優位性を持つ気仙沼向洋高校について、遺す意義の明確化や保存・維持費用を含めた検討に前向きな意見を得た。

なお、所有者である県においては、市伝承検討会議、県有識者会議の議論動向を見守る旨の回答を得ている。

＜遺構候補の被災建造物＞

候補対象物	所有者	保存可能性	判断理由
大川 JR 気仙沼線鉄橋	JR 東日本	×	JR 気仙沼線復旧に向け協議中であり、遺構としての保存判断は困難。
気仙沼向洋高校	宮城県	△	県教委より市で保存要望あれば柔軟に対応との回答あり。ただし、全体を保存の場合、多額の費用負担が見込まれる。
シーサイドパレス	民間	×	地盤沈下や浸食等により海に水没しており、保存は困難。
面瀬川水門	宮城県	×	保存する場合、防潮堤等の計画変更が求められるため、保存は困難。

3 今後の予定

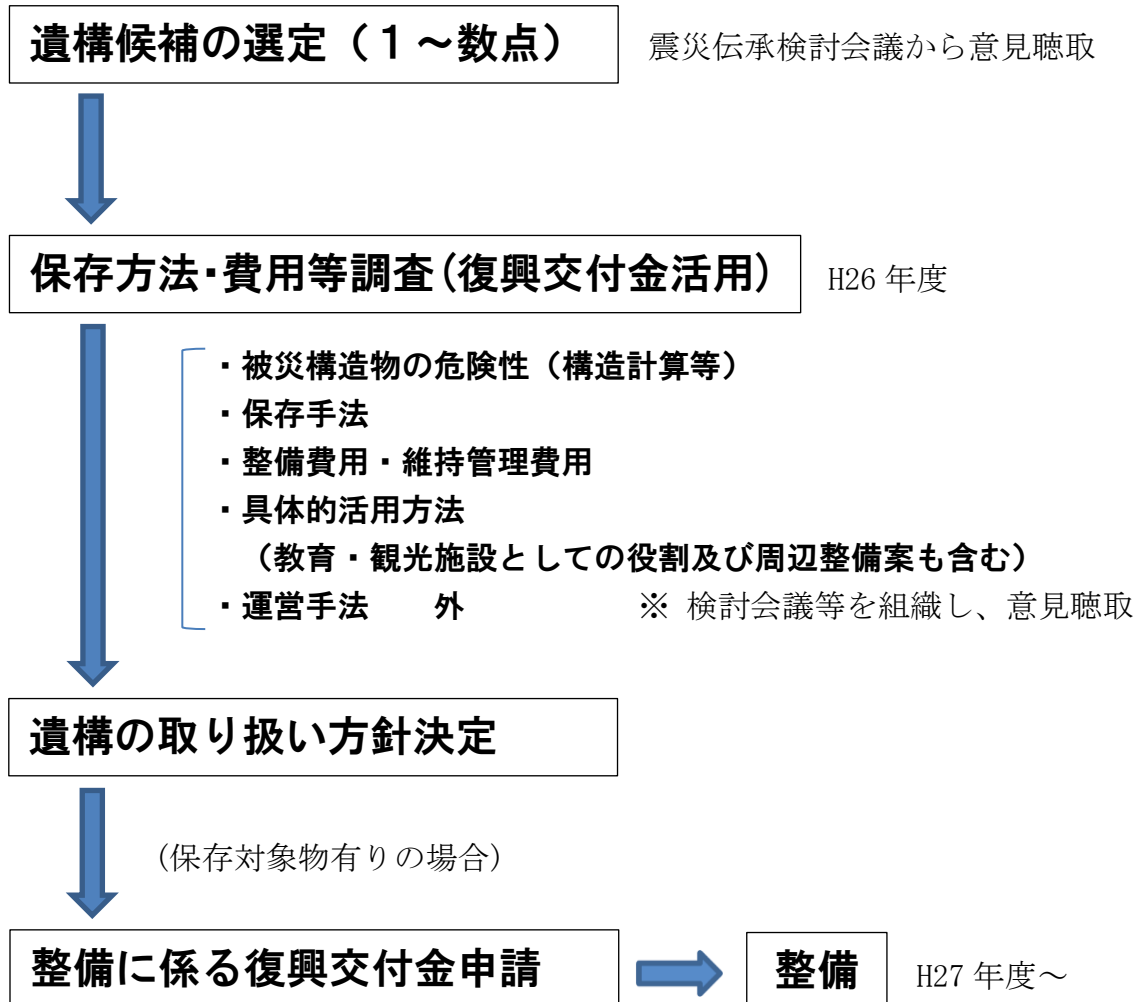
震災遺構保存整備事業に係る調査業務を実施（6 月補正最終日追加予定）

＜調査項目案＞

- (1) 建築調査（被災建造物の安全性）
 - (2) 保存活用調査（保存整備の目的・コンセプト提示、保存整備・公開活用・運用の各計画、地区内観光施設・拠点等との連携案など）
 - (3) 整備費用・維持費用の算出
 - (4) 経済波及効果
 - (5) (仮称)震災遺構検討会議※の運営と意見取りまとめ、調査報告への意見反映
- ※ (仮称)震災遺構検討会議：市が設置、学識経験者・関係者等で組織
(委員への報酬、費用弁償等は市が直接支出予定)

震災遺構選定の進め方

(復興交付金を活用した被災建造物の保存)



県震災遺構有識者会議

- H25.12 第1回会議 { 震災遺構の意義
 - H26.1 第2回会議 { 残すべき遺構の基準等
 - H26.3 現地視察 (気仙沼向洋高校含む)
 - H26.5.15 第3回会議
- 以降 個々の遺構候補について検討
26年度中を目途に結論